

# 進捗報告書（認定特定非営利活動法人 ミューズの夢）

事業名:	ミューズの夢・サポート通信プログラム「Kotori」
資金分配団体:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	認定特定非営利活動法人 ミューズの夢
実施時期:	2020年11月～2021年10月
事業対象地域:	宮城県
事業対象者:	障がい(身体的・知的・精神的・発達)をもつ子ども、入院中及び長期療養中の子ども、とその養育者

Version 1.2

日付: 2021年4月8日

## I. 事業概要

<b>事業概要</b>
新型コロナウイルス感染拡大により芸術創造活動および対面による芸術教科の学習が困難となった、障がい・重い病を抱える子どもたちを対象とした通信および少人数制訪問型芸術プログラムの内容の充実化と配給。宮城県内の病院、特別支援学級、特別支援学校、放課後児童発達支援サービス、等を利用している子どもを対象とする。教材制作時には、音楽・美術/デザイン・心理学(トラウマケア)・発達療育・音訳(録音図書)の分野の有識者と連携し、感染予防のため制限のある生活を送る子どもたちがより豊かな芸術的創造・自己表現を通じて、コロナ禍においても希望とともに社会との繋がりを達成感、自己肯定感、を感じられるよう、サポートしたい。(278字)

## II. 進捗報告の概要

<b>総括</b>
活動の一部に日程の遅れはあるが、順調に想定した活動を進められている。懸念点としては、全国的な感染蔓延および宮城県独自の緊急事態宣言発令により一時期活動が制限され、配信用動画の撮影・準備が一時的に行えなかった事で配信がスムーズに行えていない事がある。また、コロナ禍の長期化により、少人数制訪問活動やオフラインでの通信用教材の需要が増えているため、変化に対応すべく事業計画の更新検討を現場の声を確認しながら実施していきたい。(200字)

## III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
[新型コロナウイルスの影響で健常者と障がいの間でより広がった学習・文化的環境(受けられる教育)の格差から生まれた社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア]-対象者100世帯以上に学習支援教材が配給され、芸術的創造活動・芸術鑑賞がリモートにて可能なメンhod・環境が整備される。	進捗率50%：自らスマートフォンや学習用タブレットを操作することが困難である、入院中また医療機器を着用している、等が理由でオンラインによるリモート教育を円滑に受講できない対象者が利用できるオフラインの芸術的創造・学びを促す教材を約70世帯に配布完了。当教材は、有識者(デザイナー、臨床心理士、小児科医)のアドバイスのもと、障がいを抱える子ども、また長期入院体験のある子ども(とご家族)約20世帯に制作会議参加またはアンケートを通じて開発に携わっていただいた。内容は、自然・環境(教育)をテーマに、心のケアを目的とした芸術創造活動(アートセラピー)を提供するもの。経済的困難を抱える子どもに配慮し受講・参加は全て無料とした。教材の多言語化へむけた翻訳の有償ボランティアは、留学生また外国にルーツを持つ大学生とTOEIC高得点所有など言語スキルをもつ当法人会員(利用者の養育者)が協力して行える体制を整備。オンライン配信のための別企画では、青年が障がいの有無を問わず地元のプロ・オーケストラ(仙台フィルハーモニー管弦楽団)と協力し闘病中の子どもに音楽を届ける番組を制作。緊急事態宣言再発動により撮影に一部遅れが生じたが、6月初旬配信予定。(487字)

活動	進捗状況	概要
1.) 障がいと重い病をもった子どものニーズに合った音楽学習支援のための教材制作と少人数型訪問活動の実施 2.) 芸術性の高いオンライン配信用動画(コンサート形式)の企画制作・撮影・編集・配信 (Youtube, Vimeo) 3.) 遠隔による当事者参加型パブリック・アート・プロジェクトの実施	ほぼ計画通り	進捗率50%：様々な発達障がいを抱える子どもの養育者(当法人会員)約60名に対しアンケートを実施し、新型コロナウイルス発生によって変わった生活様式、自粛生活期間中に希望する芸術教育のあり方について実態調査を行った。それによると、コロナ禍における学習環境整備のためリモート学習用教材の多様化が進んだ事もあり対象者の約70%が自分のアビリティに合ったものを選択・利用できていることがわかった。しかし同時に視覚障がいを抱える子どものニーズにより添ったプログラムが限定的であること、自粛生活や情報格差による対象者の社会的孤立、それに伴うトラウマが生活全般に影響を及ぼしていること等が課題として上げられた。本事業は宮城県で行っており、当法人の会員の多くが東日本大震災の被災者であるため「コロナ」が震災時にうけたトラウマのトリガーとなり、PTSDやパニック症状に繋がったことに関しても多く声が寄せられた。そして、これまでストレス症状の緩和・発散のために活用していた演奏活動や芸術鑑賞の機会が減少したことも一因となり、ストレスが高まり、特に発語によるコミュニケーションをとることが困難な子どもの中には、自宅から出られない、乗り物に乗れない、など深刻なケースに至ったことも報告があった。上述の経緯により、本事業の1)～3)の活動全てにおいて、トラウマケアを専門とする臨床心理士および小児科医師(発達療育)のアドバイスをもとに、対象者に自ら本事業の企画・制作にアドバイザーやボランティアとして携わっていただき、対象者が社会との繋がりを感じながら、プロジェクト進捗による達成感から生まれる自信や自己肯定感につなげられるよう配慮しながら活動を進めている。例：2)の活動においては障がいを抱える青年が地元大学生と地元のプロ奏者(仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバー)と協力し入院中・闘病中の子どものために演奏を届けるプログラムを制作、3)の活動においては対象者と国際的に活躍するデザイナー・田村奈穂氏(こども服のファミリア、イッセイミヤケ、など担当)による共同制作("Kotori Project"添付資料をご参照ください)、教材の多言語化を通じた外国にルーツをもった留学生たちとの共同作業、など。1)の活動においては、当法人所属の音楽療法士や音楽講師と制作会議を重ね、月平均6回行っている訪問活動で療育支援をおこないながら、現場のニーズを確認し、教材制作とそのユニバーサルデザイン化(*視覚障がい、聴覚障がい、を抱える子どものニーズ、また日本語を第一言語としない子どものニーズに対応)をすすめている。

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
本事業を通じ、より明確に把握できた対象者のニーズにさらに答えるべく、従来の音楽療育に加え、心のケア・トラウマケアに重きをおいた芸術教育・音楽を通じた発語療育の提供、また視覚的障がいを抱えた子どもの創造活動および芸術鑑賞の充実化に力を注げるよう、人材確保・講師の育成など体制調整とともに当法人運営のプログラム全体のユニバーサル化に努めたい。様々なバックグラウンドをもつ子ども・大人がお互いの違いや状況を認め、支え合い、社会を共創してゆきやすい信頼関係の基盤を、芸術創造活動での協力を通じて培えるよう、引き続き学習環境や芸術表現の場を継続的に提供してゆけるよう、それに伴う対人的支援を強化していきたい。

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥634,000	¥6,205,000	¥6,839,000	¥1,275,964	19%
	管理的経費	¥66,000	¥495,000	¥561,000	¥165,000	29%
合計		¥700,000	¥6,700,000	¥7,400,000	¥1,440,964	19%

補足説明	緊急事態宣言の再発動により配信動画及び録音図書制作の一部が4月以降に延期されたため。事業費全体の90%は2021年度に該当するため。
------	--

#### VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
コロナ禍の長期化により、対象となる子どもを支える養育者が経済的困窮や精神的ストレス・鬱症状を経験するケースが増え、それに伴い子どもの意思とは反するかたちでプログラムへ不参加、休会、自宅での学習環境が整わない、等の状況につながるケースが増加傾向にある。今後の感染拡大の推移によっては、よりこの部分が強く表れる可能性がある。その対応として、当法人内で障がいや重い病を抱える子どもと生活している養育者を対象とした相談窓口を設け、同時に専門家によるアドバイスを受けられる養育者向けの研修の場を設けるなどして、それらの活動が子どもの成長に及ぼす影響に着目しつつ、全体的な持続可能なかたちでの状況改善に努めたい。

VII. その他

自由記述
<p>本事業を通じ、教育的環境づくりまた法人のガバナンス・コンプライアンス体制の整備において、活動資金分配団体であるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン様に多大なるお力添えとご教示を賜っている。特に「子どものセーフガーディング」研修や「子どものための心理的応急処置」オンライン講座では、非常に有意義な学びをいただき、法人運営に携わる講師・スタッフ全員の意識改革や、その後の運営体制整備において良い影響をたくさん与えていただいている。今回いただいた貴重な学びの数々を、より地域に根ざした、信頼のある法人運営、そして私共の目指している、多様な個性に対応できるコミュニティづくり、芸術教育・創造活動のユニバーサル・デザイン化、に繋げてゆきたい。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	当法人FBIによる告知。ホームページのWebニュースにて3記事 <a href="https://musenovume.jp/news/">https://musenovume.jp/news/</a> (2020/11/1掲載分, 2021/02/01掲載分)
広報制作物等	有	[Kotori Project Spring 2021 : とりのようふく] デザイナー田村奈穂氏( <a href="http://nownao.com">nownao.com</a> ) : こども服ファミリア、イッセイミヤケ、等担当
報告書等	有	「ミューズ便り」創立より年に3度発行している活動報告書。250名の会員（法人・協力・正会員）及び連携病院、特別支援学

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	総会、理事会、評議会ともに予定通り開催され、ガバナンス・コンプライアンス体制においては、セーブ・ザ・チルドレン様のご丁寧なご指導により整備することができている。
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	窓口についてメールでの案内と事務所内への掲示で周知。